【鈍川】奈良ノ木

㊼ 観子妃と皇子の墓

後醍醐天皇の孫で南朝の3代目天皇・長慶天皇（在位1368～83年）は、妃と皇子とともにこの地に潜幸していたと伝えられている。

妃と皇子のお墓と伝えられている場所が奈良ノ木にある。畑寺へ向かう道の途中の右手を少し奥へ入ったところ。

丘の上にこんもりと石積みがあり、そこに小さな五輪塔の残欠があった。崩れて傷みが激しかったため、地元の人によって、新しく石碑が造られた。

左の碑には「第九十八代長慶天皇御妃 観子姫之命「宮之上」御陵」、右の碑には「第九十八代長慶天皇第三皇子尊聖皇子御墓」とある。中央に元々あった五輪塔をすえている。

長慶天皇の伝説は、北は青森から南は福岡太宰府まで全国100ヵ所以上に及ぶ。その中でも玉川町、またその周辺に潜幸された可能性は非常に高い。最期は、現在の東温市で崩御されたとも言われている。このお墓のある所を〝宮の上〟といい、谷をはさんだ正面に王子神社がある。

㊽ 王子神社

「王子橋」という橋を渡って、10分ほど登ったところにある。車が入ることができず、徒歩で行かなければならない。

この神社は690年に開かれたと伝わる。その後、南北朝時代に長慶天皇・妃・皇子がこの地に潜幸された由縁により、その霊を合祀した。王子を抱いて千疋峠を歩く妃の絵馬が飾られている。

妃の絵馬

㊾ 奈良ノ木の貧乏神

働いても働いても暮らしが楽にならない貧乏な大家族の家に、貧乏神が憑いていたというお話が奈良ノ木に伝わっている。ここでは暮らしていけなくなり、村を出て行こうとした時に貧乏神の存在を知り、外へ放り出した。もう少しここでがんばろうと物語は終わる。紙芝居ではおもしろおかしく書かれているが、当時の農村の暮らしがいかに大変だったかということが偲ばれる。